

2023年度 医学部医学科入学者 選抜 変更点一覧

弘前大学	・学士編入学試験(第2学年)において、第1次選抜のTOEFLの評価配点を120点 → 100点満点に変更する。
福島県立医科大学	・総合型選抜において、出願書類の評価をこれまでの1次選考ではなく、2次選考で行う。 ・学校推薦型(A枠)における出願資格を、「卒業指定機関で(これまでの2年間ではなく)3年以上勤務できる者」に変更する。
金沢大学	・口述試験の評価次第では、学力試験の成績に関わらず不合格とすることがある。
横浜国立大学	・学校推薦型選抜において、英検の出願要件を上級資格(実用英検準1級やGTEC1140以上等)へと変更する。 ・学校推薦型選抜(特別公募制:県外)の地域医療枠の定員を5名 → 6名へと増やす。
東京大学	・共通テストの成績に基づく第1段階選抜の足りきを、これまでの出願倍率 約3.5倍 → 3倍からへと変更する。
名古屋大学	・後期の地域枠5名を一般枠5名にし、前期の一般枠90名を一般枠85名+地域枠5名へと、募集内訳を変更する。
岐阜大学	・一般選抜において、後期試験(定員10名)を廃止し、前期試験の募集定員を45名 → 55名へと増やす。 ・前期日程では、共通テストの成績による第1段階選抜実施基準を受験者が500名程度になるように変更する。
和歌山県立医科大学	・県民医療枠をA、B、Cに分け、B(産科枠3名程度)とC(不足診療科枠2名)を新設する。県民医療枠Bは学校推薦型選抜で行い、書類審査+共通テスト+面接で可否判定を行う。県民医療枠Cは一般選抜で実施する。
岡山大学	・一般選抜の募集人員を98名 → 95名へと減らす。
香川大学	・国際バカロレア選抜を新規に実施し、若干名募集する。
広島大学	・一般選抜において、2段階選抜実施可能性の基準を志願倍率7倍から → 約5倍からに引き締める。 ・一般選抜2次試験において、これまでの理科重視のA(s)方式(英語300点+数学300点+理科1200点)に加え、英数重視型のA(em)方式(英語800点+数学800点+理科200点)を新たに導入する。A(s)方式とA(em)方式のうち、合計点が高得点の方の成績で可否判定して定員の半分を残り、残りの定員の半分は従来のB方式(英語600点、数学600点、理科600点)で可否判定を行う。
愛媛大学	・総合型選抜において、出願書類に「志望理由書」を追加する。ただし、点数化せず面接に含めて評価する。 ・学校推薦型選抜ⅡのB(地域特別枠推薦)の定員が20名 → 5名となるが、臨時増員の申請予定。
九州大学	・一般選抜の外国語は英語を必須とし、独語と仏語は不可とする。
山口大学	・学校推薦型選抜の定員を42名 → 44名に増やす。(認可申請中)
長崎大学	・学校推薦型選抜ⅡAおよびⅡBにおいて、1学校当たりの推薦人員を計6名以内 → 計12名以内とする。 ・学校推薦型選抜ⅡA～ⅡDの合格に必要な要件について、大学入学共通テスト総得点率「80%以上」 → 「75%以上」へと基準を下げる。
佐賀大学	・学校推薦型選抜において、従来の共通テスト720点に加えて、書類審査(調査書、推薦書、志望理由書)の点数化をやめ260点 → 0点へ、小論文の配点を120点 → 150点へ、面接の配点を140点 → 90点へと変更し、総配点を1240点満点 → 960点満点とする。 ・一般選抜において、前期試験と後期試験のいずれも調査書100点の点数化をやめる。 ・一般選抜後期試験において、面接の配点を180点 → 120点へと下げ、自己推薦書を廃止し、課題論文に替える。また、日程をこれまでの2日間から、1日のみ(3月12日)で実施する。
鹿児島大学	・一般後期選抜において定員を23名 → 21名へと減らす。
岩手医科大学	・学校推薦型選抜の公募枠を15名 → 12名へ、学士編入枠を4名 → 若干名へと減らす一方で、総合型選抜5名以内 → 8名へと増やす。 ・一般選抜に地域枠D(全国枠・診療科指定)を新設し、若干名を募集予定。(認可申請中)
自治医科大学	・第1次の面接実施日を学力試験の翌日のみでなく、翌日またはその1週間後に設ける。
順天堂大学	・地域枠選抜の1次学力試験において、大学入学共通テストを利用せず、一般選抜A方式と同様の3教科4科目で行う。 ・「国際バカロレア選抜」を「国際バカロレア/ケンブリッジ・インターナショナル選抜」に改め、国際バカロレアだけでなく、ケンブリッジ・インターナショナルAレベルやイギリスにおけるGDE Aレベルの成績を活用する入試方式として実施し、2次学力試験を免除する条件も設ける。
日本医科大学	・一般選抜前期の募集定員を75名 → 72名へ、後期の定員を19名 → 22名とする。特待生は前期30名 → 35名へ、後期10名 → 5名とする。
東京医科大学	・学校推薦型選抜の山梨県地域枠を募集停止とし、代わりに埼玉県地域枠を新規に実施予定。(認可申請中)
北里大学	・一般選抜1次試験会場を、従来の相模原キャンパスに加え、東京ドームを設ける。 ・学士入学者選抜において、出願書類の「推薦書」なくす。
国際医療福祉大学	・特待奨学生制度を拡充し、6年間の学費+学生寮費が無料になる特待奨学生Sを一般選抜で20名募集する。また、6年間の学費が300万円となる特待奨学生Aを30名(一般選抜で25名、共通テスト利用で5名)募集する。
聖マリアンナ医科大学	・現行の学校推薦型選抜(指定校:20名)を廃止し、一般公募枠を10名 → 25名に、一般選抜前期の定員を70名 → 75名に増やす。 ・学校推薦型選抜の面接の配点を200点 → 100点へ、一般選抜の面接の配点を150点 → 50点に減らす。
昭和大学	・Ⅰ期の他学部併願枠5名は薬学部の併願のみとし、歯学部の併願は不可とする。 ・地域枠(茨城、静岡、新潟)も認可申請予定。 ・Ⅱ期の募集定員を20名 → 18名に減らす一方で、卒業生推薦入試枠を5名 → 7名へ、Ⅰ期の募集定員を82名 → 83名へと増やす。
杏林大学	・総合型選抜を廃止し、一般選抜の募集定員を88名 → 89名へと増やす。 ・共通テスト利用の後期(募集5名)を廃止し、従来の共通テスト利用前期の募集定員を10名 → 15名へと増やす。
東海大学	・数学Ⅲを出題範囲から除外し、数学はⅠAⅡBのみとする。
帝京大学	・学校推薦型選抜の学科試験をマークシート形式へと変更する。
金沢医科大学	・一般選抜前期の定員を65名 → 72名と増やす一方で、総合型選抜の定員を21名 → 14名に減らす。 ・特待生制度を新設し、一般選抜前期試験において成績上位10名に対し、450万円を免除する。 ・研究医枠を設け、総合型選抜として実施する。 ・総合型選抜および学校推薦型選抜の自己推薦書を2000字以内 → 1000字以内へと変更する。
藤田医科大学	・総合型選抜(ふじた未来入試)では、高卒枠を廃止し、現役生限定で12名募集する。 ・一般選抜後期の一般枠を10名 → 5名と減らす一方で、一般選抜前期の一般枠を73名 → 78名へと増やす。 ・昨年まで後期で募集していた成績優秀者奨学生10名を、一般選抜前期試験で募集する。(後期試験での特待はなくす)
近畿大学	・学校推薦型選抜において、数学の試験問題をこれまでの医学科独自の問題から、全学部共通の問題に替える。
関西医科大学	・一般選抜(前期・後期)において、小論文を廃止する。また、英語の試験においては一部マークシートを導入する。 ・6年間の学費総額を670万円引き下げて、2,770万円 → 2,100万円とする。さらに特待生は、2,420万 → 1,920万とする。
兵庫医科大学	・総合型選抜(一般枠3名、卒業生子女枠3名)を導入する。いずれも専願制とし推薦書が必要だが、1浪生まで出願可。可否判定は、第1次試験(書類審査50点)、第2次試験(基礎適性審査[英語]100点、基礎適性審査[理科]150点、小論文50点)、第3次試験(数理的課題に対するプレゼンテーション50点、個人面接50点)により行う。
川崎医科大学	・特定診療科専攻枠(救急科、総合診療科、麻酔・集中治療科)を新設し、総合型選抜で約4名を募集する。 ・鹿児島県霧島市の地域枠を設け、約1名募集する。出願資格は4浪以下の霧島市住居者(保護者も含む)限定で、総合型選抜で実施する。書類審査+総合適性試験(英語+数学+物理+化学+生物+国語+時事)+小論文+面接で可否判定を行う。
産業医科大学	・学校推薦型選抜におけるブロック別選抜人員について、各ブロック別選抜人員を10名以内から15名以内に変更する。 ・一般選抜の出願締切時期を早め、共通テスト実施前に締め切る。

2024年度 医学部医学科入学者 選抜 変更点一覧(判明分のみ)

山形大学	・一般選抜前期2次試験において、国語の試験をやめる。(英語+数学+理科2科目+面接のみにする。)
岐阜大学	・一般選抜2次試験において、第1段階選抜の足りきを共通テストの成績に基づき出願倍率3倍から行う。
岡山大学	・英語外部検定試験の上級資格(実用英検準1級など)保有者に対し、共通テストの英語を満点扱いとする。
長崎大学	・学校推薦型選抜Ⅱ研究医枠を9名 → 4名へと減らし、一般選抜前期定員を71名 → 76名へと増やす。
宮崎大学	・私費外国人留学生入試を廃止する。
東京女子医科大学	・学校推薦型選抜の「指定校推薦」を廃止する。「一般推薦」と「至誠と愛」推薦は継続する。
北里大学	・学士入学者選抜を1月ではなく、11月の学校推薦型選抜と同日に実施し、「基礎学力検査」「論文」「面接」を行う予定。
産業医科大学	・総合型選抜を新規に実施する(募集定員10名以内)。 ・学校推薦型選抜の推薦人数の上限を撤廃する。また、浪人生の出願要件を変更する。 ・一般選抜をA方式(従来方式)、B方式(1次共通テスト抜き)、C方式(2次学力試験抜き)の3種類に分ける。